

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
はっち 六弦 しーしー 風子	楽 佳月	きいち	凡士	佳月 はっち くるみ		土璃	音思 風舎 六弦 しーしー くるみ	ひろし		ヨネヤマ きいち	つぶ金				
除夜の鐘わたしが私許するとき 季語選びが秀逸。1年間のリセットですね。年の終りに自己肯定。108の除夜の鐘は燃えたかる己の心の中も消し去るということか。	冬三日月嘘の芯まで見透かせり 嘘の芯という表現がとても気に入りました。三日月に芯という表現が合ってます。	悩みなどないふりをして初化粧 皆悩みのひとつや二つあるもの初化粧で作者の快活さが分かる、ホッとする良い句。	老人談笑人日のゴミ捨て場 さあ今年もしっかりお喋りするぞ。	そんなこと言ふた言はぬとおでん酒 こんなことはよくありますね。おでんと酒で楽しく言い合ってる姿が見えます。不穩にならないうちに話を変えて美味しいお酒で終わりたいですね。	年新たな野猫とへば句と古き妻 もこもこの小屋の景がよく見える。	蔦紅葉すつぽり小屋を包みけり	悩みなどないふりをして初化粧 悩みとは成就間近な恋か、明るさを感じさせる句である。女性の強さを感じます。まつさらなわたしになるのだ。その通り、新年ですものね！	熊さんに八つあんになるおでん酒 さもありなん。	粗挽きの豆の香りや冬日和	友達を恋人に変えし雪の華 季語が良いですね。ひらひら舞う雪の結晶の美しさがよく分かる、後悔しなれば良いが。	冬薔薇一途というも侘しくて 季語と一途が響きます。	福寿草コーヒー豆を挽く夫よ	煙立つアロマキャンドル除夜の鐘	鉄橋やSL迎えて冬の空 米山カラーリング	
新井のり子	春駒	遠藤 信	森下山 菜	朝子	瞳人	衛	遠藤 信	展平	檜鼻ことは	宇田靖之	森 佳月	丸井ねこ	つぶ金		

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
凡士 癒香	ヨネヤマ		音思	ヨネヤマ 幹子	かれん		山菜		ひろ志	絵夢	ことは	楽 朝子	つぶ金		
頭から食ふてみんなさい柳葉魚だよ <small>北海道と広島（岡山）の対比か？方言が絶妙。</small>	足裏でじゃんけんしてる日向ぼこ <small>足裏じゃんけんが良いですね。</small>	米粒ほどのジェット空ゆく初山河	初孫を影で見守る寒稽古 <small>初孫は可愛くて気にかかるもの。</small>	初春やサラブレッドの駆ける音 <small>駆ける音が秀逸。午年に相応しい新春のニュースでした。今でも蹄の音が耳に残っています。</small>	宍道湖に鋤簾うごめく冬夕焼 <small>宍道湖のシジミ漁が夕焼けの中にシルエットとして浮かびます。</small>	みどり児のふにやりと笑まふお元日	湯上りの皴股を揉む雪模様 <small>「しわまた」ですか。意味深淵！</small>	ゆったりとぬる湯につかる雪もよひ	大枯野井月の影彷彿と	掌の雪は流れて冬ぬくし <small>冬の冷たさと人の温もりが、手に収まってやさしい句。</small>	「雪国」の温もつてゐる炬燵かな <small>炬燵から離れられそうにありませんね。</small>	子ら去りてまた二人なる晦日かな <small>日常に戻った瞬間を切り取ったいい句だと思いました。類句ありそうだが、核家族の景が見える。</small>	踏切の先ゆつたりと初明り <small>踏切、障害がなくなつて初明かりに進む様子が新年の句。</small>	お出かけは孫のお下がりボアコート <small>踏切、障害がなくなつて初明かりに進む様子が新年の句。</small>	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
秋谷風舎	ありぎりす	渋谷きいち	新 暦文	高田はっち	岡崎梗舟	くるみ	高原ひろし	河原さんぼ	しんい	雪待月田猫	河野凡士	高松和永	石関六弦	しーしー	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
暦文		ひろし	朝子 梗舟 田猫	喜夫	ことは	ことは 風舎 風子	喜夫 はっち 瞳人	梗舟		つぶ金 俊之		ねこ		絵夢	
朝日浴び紅鮮やかに実千両 千両の赤い身は新しい年の希望。	女教師の手に閻魔帳初仕事	新年や路上に並ぶ県外車 帰省の時期の風物詩。	いつ癒ゆる地球の疵や春まだき 戦争や災害の爪痕が絶えないこの星にも春は来る。そのとおり。戦争や環境破壊の先の幽かな希望。季語が秀逸。	枯木星また一つ増え夜深し 枯木星が無駄を捨てていく断捨離の跡のようで、新年の清々しさありがとうございます。	冬籠スナック菓子と文庫本 のんびりとした静かな冬籠、いい時間をお過ごしですね。	寒卵希望は毎朝やつて来る 希望は毎朝やつてくるという言い切りに元気をもらいました。毎日、希望に満ちた朝を迎えられる作者が羨ましく思われた。栄養価の高い寒卵を食べると元氣浚刺、素直な俳句。	亡き人と笑う初夢寝過ごせり 亡くなった後まで愛されているのが、本当の夢ですね。久しぶりに夢で会えた時の楽しさと、切なさも感じる。いい初夢でした。	鮫鯨や組にひとりとは滋味な奴 季語が絶妙。	円陣を組んで声冴ゆ舞台裏	初日影猫も三つ指つくごとし 猫の仕草がいい。新年の句。猫のちよこんとした座りを三つ指に見立てたのが可愛らしい。	果ての無き句道を歩む去年今年	枯野道溶岩流の砂軽し 砂埃をも想像が出来ました。	よき香りパン焼きあがる春時雨	友去りて表札変わり年新 過去の友、表札の現在、年新的未来、3つの時間が深く溶け合っている。	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
癒香	染谷風子	総太郎	青木鶴城	かれん	龍野ひろし	神谷たくみ	霜里	大越マーガレット	白井俊之	岩清水彩香	衛	平野 楽	岡本たか子	和田イチ子	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
かれん きいち 彩香 しーしー 幹子 俊之	和永			しんい 土璃 ねこ たか子 田猫		展平			たくみ 彩香 和永 ひろ志						
降る雪の傘に重たき別れかな	戦の母の手いまは柔らかし 苦勞して育ててくれたのですね。	門松の明るきことよ新所帯	聖なる夜街中拡がる鈴の音よ	火を灯す千の棚田や冬の暮 ライトアップの「棚田のあかり」でしようか。「火を灯す」という表現が面白い。美しい光景が鮮やかに広がりました。火に照らされた冬の棚田の情景描写が素晴らしい！雄大で幻想的。美しい句。	福引や目指して走る最後尾	妻として女としての初鏡 季語が生きています。	店頭に並ぶ古本冬日和	空風や改名しげき喫茶店	野の石に還りし仏冬すみれ ゆるやかな時の流れに冬すみれが効いています。季語の「冬すみれ」が効いている。すべては、自然にかえります。	幼子が恐れる音で吹雪まく	夜はふけて一人仕舞い湯虎落笛	初鏡まばゆき光（かげ）に年を消す	息白む手習ひさらひ墨つづれ	両脇の子痺れる腕冬深し	螢のまま
遠藤 信	森 佳月	檜鼻ことは	宇田靖之	米山カラー リング	丸井ねこ	つぶ金	立野音思	石川順一	小林土璃	寒立馬	佐藤幹子	持永 喜夫	絵夢		

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
		展平	しんい 瞳人			しんい	ひろし	土璃			楽 順一	くるみ			
山陰の積雪に笑む我ら子孫	初雪の畝間に残る大山家	きりたんぽ秋田美人の訛りかな 聞いてみたいですね。	俊敏な女性総理や春近し 初の女性総理に期待は大と季語の力。前任2人の情けない男、こちら切れ味鋭い女宰相。	寒肥をひと粒づつね植木鉢	新春やシュトラウス聴き静まりぬ	自販機に御朱印ならぶ今朝の春 目の付け所が良い。御朱印が並んだような語順が少し難かも。	降る雪の傘に重たき別れかな 情緒あり。	うつすらと枇杷の香放つ考古館 考古館の雰囲気をよくとらえている。	三姉妹笑い溢れて除夜は更く	トレモロに俳人嗤ふ寒鴉	北海道は四角のままに去年今年 理由はわかりませんが素直になんだかとてもいい句だなと思いました。	この句座のこの顔ぶれや年新た （類句があるかもしれませんが）作者の想いが伝わる新年らしい句。	縁側に開く桃源日向ぼこ	蘆枯れて河口の波の荒れ始む	
高原ひろし	河原さんぽ	河野凡士	雪待月田猫	しーしー	高松和永	石関六弦	遠藤 信	新井のり子	春駒	瞳人	森下山菜	朝子	展平	衛	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
彩香 俊之		六弦	和永			凡士	朝子 佳月		夫 瞳人 順一	山菜		癒香 風子	たくみ たか子	かれん 幹子 ひろ志	
梅の枝のもつれし先の空は青 もつれし先が良い。青！とハッキリ言い切ったのが気持ちよい	定まらぬ句の推敲や明易し	元日や人生ゲームの駒ぽつり ぽつりが効いています。	冬夕焼父母のおはする西の空 二人の笑顔が浮かんでくるんですね。	冬の霧山湖覆い霧の街	匠の目鷹の目の先有害鳥	卒寿にて喘ぐ石段初詣 立派なものです。	冬の蝶すべてを知つて草に落つ 全てを知つた悟りの心境か？	肉まんをはふはふ食ふや冬茜	なべ焼きや旦那が愚図で猫舌で 愚図な旦那が猫舌で愛おしいのですね、愛されてみたいです。ぐうたら亭主また好し。	松明けて神棚にあるプラレール 松が明けたら神棚も子供の一時預かり所になった！	天上の幕末三舟星冴ゆる	鼻風邪に少し艶めく電話口 鼻声は色つぼい。顔の見えない電話の利点。	初詣 帰りに寄席へちよいと寄る 毎年初席に行つて獅子舞を楽しんでいます。私には寄席が主で初詣が従に詠める。愉快な句であります。	海光や緋寒桜のほころびぬ 海の光に緋寒桜が輝くようです。春が近づいてくる喜びを感じる句と思いました。	
霜里	衛	白井俊之	岩清水彩香	和田イチ子	平野 楽	岡本たか子	渋谷きいち	秋谷風舎	ありぎりす	岡崎梗舟	新 暦文	高田はつち	くるみ	しんい	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
	順一	絵夢				音思 風舎	ねこ	たか子	暦文 梗舟		たくみ 山菜		展平 田猫	暦文 癒香	
人去れば椅子のおしゃべり暖炉の火	雑炊を皆に取り分け宴おわる	海に月漂ひてをり山眠る <small>冬の家と山の静謐な情景が月を通して上手く描かれている。</small>	こする手や猫耳揃ひ初詣	初句会あいさつ交わす華やぎて	初鴉凍つる坂道初すべり	熱爛やいつもほっつけの馴染客 <small>熱爛とほっつけの旨い、素敵な女将の居る小料理屋か。通う気持ちが伝わってくる。</small>	珈琲と赤子の寝息冬茜 <small>「冬茜」がほつとした情景をより引き立てている。</small>	覗き見て瞳輝くお年玉 <small>往年の孫の仕草を思い出し懐かしく感じました。</small>	今生にひと花咲かせ霜柱 <small>上と霜柱の取り合わせが良い。はかなく消えて欲しくありません。</small>	歳末や氏子総代札配る	アラームに幽体離脱寒の朝 <small>幽体離脱とは言い得て妙。幽体離脱ができれば、ほんと幸せ！</small>	親の鎧スーツに着替へ成人式	振出しに戻る試練や絵双六 <small>人生と同じですね。ゲームのスリルと人生を感じさせる句。</small>	厳冬の始発は湯気を吐きて来る	湯気を吐くのが表現が上手い。情景がありありと観てとれる。
小林土璃	寒立馬	立野音思	絵夢	佐藤幹子	持永喜夫	染谷風子	蛭のまま	癒香	かれん	総太郎	青木鶴城	神谷たくみ	龍野ひろし	大越マーガレット	

														106	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月
														虎落笛机を占めるスポーツ紙	
														石川順一	